

『日本経済新聞』 2009年9月27日 朝刊

## 「矢崎総業・ノーリツ 太陽熱温水器で部品を相互供給」

矢崎総業とノーリツは太陽熱温水器の主要部品を相互供給する。家庭の屋根に設置する集熱器を矢崎が、追いだき用のガスボイラー付き貯湯槽をノーリツが生産し、製品は別ブランドで販売する。主要部品を共通化することでコストを低減。販売が低迷する太陽熱温水器事業をテコ入れする。

これまで太陽熱温水器と追いだき用ガスボイラーを設置すると100万円近くかかったが、両社はこれを70万円程度に引き下げた。矢崎は10月に自社販売網で新製品を販売し、年内には量販店などでも販売を始める。ノーリツはすでに販売を始めている。

矢崎の太陽熱温水器の年間販売台数は約1万台、ノーリツは4千台程度。主要部品の生産規模を拡大することで量産効果を引き出し、価格低減につなげる。

東京都は4月から太陽熱を使った給湯システムの導入補助制度を設けた。両社は使い勝手の高い追いだき機能付き製品に主力商品を転換し、市場の再拡大を目指す。